

マイフィールドは どこですか？

いつでも観察できるようなほんの
身近な場所を観察してみると…。
文と写真：繁里 昇（しげる）

ひっくりすんで！



「いつもの場所」だからいい

自然観察をする上で「マイフィールドを持ちなさい」というアドバイスは比較的多く言われることです。「マイフィールド」とは自分の身近で頻繁に観察ができる、いわゆる『いつもの場所』のこと。この言葉には自然観察をする上での重要な意味が隠されていると、私はこの数年痛感させられています。それは、自



小田貫温原
新しいマイフィールド

然観察の中でも特に鳥に興味のある私だからこそなおさら実感できたのかもしれませんが、鳥は自由に空を飛ぶことができ、渡り、という特別な生態を持っているため、マイフィールドで観察した場合でも、意外と多くの新事実気付かされる場合があります。「マイフィールドを持ちなさい」という言葉には「身近な場所にも驚きは溢れている」という真意が秘められているのだと私は思います。

そのことに気づかされたのは、前任地山口県でのある出来事がきっかけでした。当時勤務していたビジターセンターで鳥類個体数調査をやってみないかと話を持ちかけられたのが始まりです。調査の内容は、決められた月に決められたコースで、確認した鳥とその数を記録するというもの。当時の私はあまり鳥に関する知識がなかったのですが、勉強になると思い引き受けることにしました。

私の任された調査地は標高1600m程の農村地帯で、日本の原風景のような場所。小高い山の麓に広がる水田地帯で、数件の農家が点在

する地域から始まり、途中2つの農業用の溜め池を通り過ぎて3つ目の池で終了するというコースで、距離にしておよそ1.5キロの道のりです。夏はサンコウチョウ、冬はオシドリが利用する飽きのこないフィールドでした。

調査素人。の私としては『習うより慣れる』という教訓を胸に、指定された調査日以外でも調査地へと足を運んだものでした。調査の要領も分かりはじめた3度目の調査の時のこと。この日の出来事が私の「マイフィールド」への思いを決定付けました。最終地点の3つ目の池まで辿り着き、これまでの調査で確認していたカイツブリを探していると、なんと、雛連れのカイツブリがいるではないですか?!しかも雛が4羽も!!!見落としのないようしっかりと観察していたつもりだったので、これには正直キツネに摘まれた気分になりました。よく見れば、池の奥の方には浮き巣もあり、自身の観察力の無さにがっかり…。しかし、同時に「それまで見えなかったものが見えた」という喜びも味わうことができました。



カイツブリの親子



自然塾に営巣した
キセキレイ

繰り返し観察することで、変化に気付くことの面白さを知ったのです。それ以来、「マイフィールド」で起きる日々の変化を楽しむことが、私の日課となりました。

新しい「マイフィールド」へ 今年3月にやってきたこの田貫湖

でも「マイフィールド」を中心に観察することが私の楽しみとなっています。自然塾の木道と小田貫温原が新しい「マイフィールド」。どちらも普通に歩けば15分足らずのこじんまりしたフィールドですが、私の場合、何時間居ても飽きることのない大切な空間です。毎日見ていると新たな発見が次から次へと出てきます。

今のところ一度しか見ることでできていないアナグマですが、私たちに気付かれることなく、確実に暮らしているのでしょうか。次に出遭う時は親子連れでしょうか？

それから、鳥たちの巣もいくつか確認できました。毎日見ていると、いつもと違う行動に気付くことが出来るので、巣作りや子育てのシーンを発見できることがあります。

営巣・子育てといった繁殖行動の

確認は将来の自然保護にとっても役立つため、発見した時の喜びは言葉にできないくらいです（ただし、繁殖に関する観察はその生き物に与える影響が大きいので、十分距離をおき、静かに、極少人数で行う必要があります）。

また、自然塾木道の奥にある『あかがえるの池』はシュレーゲルアオガエルとモリアオガエルが産卵のため利用しますが、はじめ区別できなかった声の違いを、毎日の観察から分かるようになりました。

「マイフィールド」を持って観察を続けることは、身近な自然を守る気持ちにもつながるので、皆さんにもお勧めしたい自然観察方法です。わざわざ遠くまで出掛けて、珍しい生き物を追い回すことには、私はあまり意味を感じません。私たちの身の回りのちよつとしたフィールドを継続してじっくり観察していれば、ハッとするほど新鮮な驚きや、心動かす生命の営みが、自然とあなたの「マイフィールド」に姿を現すことでしょう。

皆さんの「マイフィールド」はどこですか？



モリアオガエルの産卵